

真名川ダム・九頭竜ダム 水源地域ビジョンの推進

国土交通省の取り組み

大野市水循環基本計画における該当施策の分類



流域マネジメントの推進



水循環に関わる人材の育成と水文化の継承



災害や気候変動、地下水障害等への対応

施策一覧表



1. 流域マネジメントの推進

(1) 貯留・涵養機能の維持・向上

ア. 森林

1	スマート林業の導入等による作業の省力化・効率化
2	森林経営管理制度を活用した森林整備率の向上
3	林業従事者育成支援
4	福井県水源涵養地域保全条例及び大野市森・水保全条例の適正な運用
5	民間主導の森林保全活動の推進
6	未利用間伐材等の有効活用

イ. 河川

7	河川維持流量に係る関係者間の情報共有と共通認識化
8	河岸かく乱など河川環境改善に向けた取り組みの継続
9	真名川における自然出水再現放流の実施
10	清滝川の土砂の浚渫など河川環境の改善
11	赤根川の治水対策における地下水の河川への流出抑制に配慮した整備手法の検討

ウ. 農地

12	水田湛水の継続実施及び面積拡充等の検討
13	農地における水の貯留・涵養機能の向上に向けた検討
14	越前おおの型食・農業・農村ビジョンの推進
15	認定農業者などの担い手への農地集約・集積や経営体質の強化
16	農業振興地域整備計画の適正運用
17	農業水利施設の長寿命化対策及び共同活動による農地維持作業の促進

(2) 水資源の適正かつ有効な利用の促進

ア. 適切な水利用

18	年間を通じた節水行動と節水機器の普及啓発
19	地下水位表示板やHP等を通じた啓発
20	水資源の保全と利用の調和を図るための指針作成
21	水利用の合理化の検討
22	道路消雪施設から機械除雪への転換
23	慣行水利権から許可水利権への変更の推進
24	雨水の有効利用と貯留浸透の推進

イ. 安定した水供給の確保

25	大野市営水道事業基本計画に基づいた施設整備等の推進
26	水道水質の管理徹底
27	連携した湯水対応

ウ. 水辺空間の活用と適正管理

28	環境基本計画に基づいた生物多様性の保全
29	水辺空間の有効利用と適正管理
30	内水面漁業の振興
31	水辺の楽校の活用
32	真名川サイクリングコースの活用
33	河川上流部地域における体験型観光等の推進

エ. 水のみえるまちづくり等の推進

34	水のみえる施設の適切な維持管理と水を感じることができる環境づくり
35	ごみ捨て防止への意識啓発活動
36	グリーンインフラの活用推進

オ. 公共用水域の水質保全

37	河川水質の監視
38	公共下水道の加入と合併処理浄化槽の設置
39	有害物質使用事業所への立入調査や水質監視の実施
40	窒素負荷低減対策の実施
41	海洋プラスチック問題につながる河川等でのごみの不法投棄への対応

(3) 健全な水循環を通じた地域活性化の推進

42	水のがっこうを拠点とした地域活性化の推進
43	湧水地などを巡る散策ルートの設定
44	水をテーマにした観光の推進
45	SNS等を活用した計画的な広報展開
46	名水を活用した特産品のブランディング
47	特産品のプロモーション活動の推進
48	道の駅「越前おおの 荒島の郷」やECサイトを活用した特産品の販売促進
49	市のイメージに合った企業の誘致

施策一覧表



2. 水循環に関わる人材の育成と水文化の継承

(1) 健全な水循環に関する教育、人材育成及び研究の推進

1	水循環に関する教育や啓発活動の継続的な実施
2	教育現場における水に関する講座の実施
3	「水の本」を使用した出張授業の実施
4	幼少期から水について考え学べる機会の創出
5	水の支援を通じて得た成果による水への感謝の気持ちの醸成
6	民間活動による水のがっこうの活用
7	水に関する書籍・資料等の収集・共有
8	本市をフィールドにした大学や国の研究機関が行う水に関する研究の促進
9	シンポジウム等の開催による情報発信
10	ニーズに合った市民向け講座の企画と運営
11	水環境の重要性についての理解と関心を深め認知度を向上させるための行事等の開催
12	市民団体等による自発的な取り組みの実施

(2) 水文化の保全と継承

13	蓄積された調査研究成果の整理集積・共有
14	写真や地図など様々な資料のデジタルアーカイブ化
15	市内外に向けた水文化の積極的な情報発信
16	伝承や遺産の継承と文献や民具等の活用
17	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの推進
18	イトヨの里を拠点としたイトヨを通じた環境教育の展開
19	イトヨの里館内の展示物のリニューアルやイトヨ生息地の保全
20	水文化に関する講座等の開催
21	市民参加型のイベントの開催
22	ブナの森環境保全林の適正管理と活用
23	湧水地数の把握と整理と保存
24	飲用実態のある湧水地の衛生環境の確保
25	水文化に関する伝統行事等の「おおの遺産」への登録

(3) 新たな水文化の創造に向けて

26	市民の意識アンケートの実施
27	醸造品などの地域産品の継承や販売の促進、新たな商品開発

3. 災害や気候変動、地下水障害等への対応



(1) 水災害に対する防止・減災対策

1	給水施設間のループ化・給水ルートの耐震化
2	公共下水道ストックマネジメント計画に基づいた更新事業の実施
3	ため池の適正管理や耐災害性の強化の促進
4	治山施設や砂防施設の適切な維持管理・更新
5	自主防災組織の組織強化による防災力の向上
6	大野市総合防災マップ（ハザードマップ）を活用した防災力の向上
7	流域治水の推進
8	河川改修による流加能力の向上
9	九頭竜川上流ダム再生事業の推進
10	防災井戸等の設置の検討
11	災害応急用井戸の登録制度運用の検討

(2) 気候変動が水循環に与える影響の調査研究と適応策の検討

12	気候変動が水環境に与える影響の情報収集・把握
13	ダムや河川、地下水帯の持つ機能が連携する活用策の検討
14	健全な水循環を維持するために必要となる適応策の検討
15	温室効果ガスの吸収源となる森林の保全整備

(3) 地下水障害の防止と対策

16	地下水の消雪利用禁止の制度周知・監視と遵守
17	道路消雪施設から機械除雪への転換（再掲）
18	上水道への加入
19	砂利採取の禁止・抑制への協力の継続
20	条例による地下水採取規制の方向性の検討
21	地下水位の監視と地下水注意報・警報の発令
22	有害物質使用事業所における適正管理と地下水質の監視継続
23	有機塩素系化合物汚染の浄化対策
24	汚染状況のモニタリングの継続
25	地下水に配慮した公共事業の実施
26	誘致企業等との公害防止協定締結の推進
27	地盤沈下の定期的な監視
28	地盤沈下に関する情報発信を通じた地下水保全意識の啓発
29	井戸枯れ対応タイムラインの作成と運用
30	地下水汚染対応タイムラインの作成と運用
31	水に関するモニタリング計画の作成と運用
32	開発行為等に際しての地下水質保全指針の適切な運用
33	開発行為等に際しての地下水量確保指針の適切な運用

① 九頭竜ダム湖の特定外来種コクチバス共同調査・駆除



概要

- 九頭竜ダムでは、平成19年にコクチバスの生息を確認し、平成22年から在来魚を守るため関係機関と協力して、毎年、産卵期となる6月に外来魚駆除を実施しています。

R6年度は、ドローンによる産卵床調査やコクチバスの生息域調査を実施するとともに、13機関54名が参加しての、コクチバス駆除活動に取り組みました。

駆除方法は、刺し網や釣りによる駆除を行い、大小合わせて169匹(刺し網137匹、釣り32匹)のコクチバスを駆除することができました。



【開催日時】令和6年6月11日(火)

【実施場所】福井県大野市長野（九頭竜ダム）

【主催】福井県内水面総合センター

【参加機関】奥越漁業協同組合、大野市漁業協同組合、大野市、電源開発(株)、九頭竜川ダム統合管理事務所、など 合計12機関

【参加者数】54名

【駆除方法】刺し網、釣り

■ 釣りによる駆除



■ 内水面総合センター所長あいさつ



■ 駆除されたコクチバス



捕獲したコクチバスは、食性を把握するため、内水面総合センターで解剖による胃内容物検査を行います。



② 真名川におけるフラッシュ放流の実施



概要

■放流日時

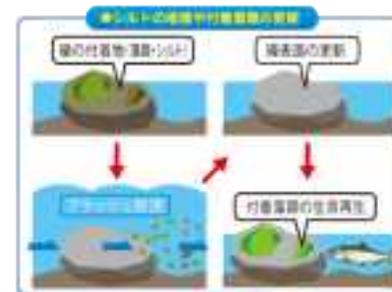
○R6年度も実施に向けて調整を行いましたが、条件が合わず実施できませんでした。

■真名川への効果

○フラッシュ放流により、古い藻類やシルトなどの付着物を洗い流す効果が期待されます。

●河川環境の保全

流量に変動を与えることで、ダム下流の河川では、礫に堆積したシルトや付着藻類を更新します。



●フラッシュ放流

3/11～4/30の期間に、最大で約200m³/sの放流を6時間継続して行い、自然出水を再現します。

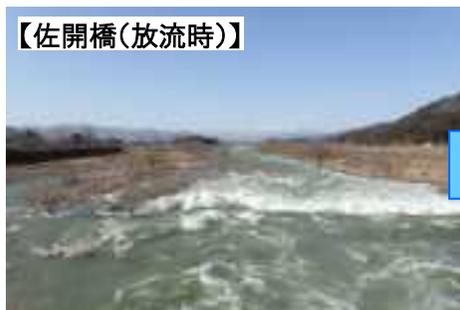


R5年度の状況

【真名川ダム放流の様子】



【佐開橋(放流時)】



【佐開橋(放流後)】



【富田大橋(放流時)】



【富田大橋(放流後)】



【川石の状況】



注意)写真は、同付近の川石と比較したもので、同じものではありません。

③ 森と湖に親しむ旬間行事



概要

■ 森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等のもっている自然豊かな空間や社会生活にはたしている役割について理解を深めていただくことを目的として、真名川ダムおよび九頭竜ダムの見学会を開催しました。



【実施内容】 九頭竜ダム見学会（令和6年7月27日(土)）
真名川ダム見学会（令和6年7月28日(日)）

【主催】 森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
福井森林管理署／福井県／大野市
電源開発(株)／北陸電力(株)／関西電力(株)
大野市漁業協同組合／奥越漁業協同組合
ノーム自然環境教育事務所／
(一財)越前おおの観光ビューロー
福井河川国道事務所
九頭竜川ダム統合管理事務所

【関連・協賛行事】 第16回もりみずカップ少年サッカー大会
（令和6年6月1日(土)、2日(日)）

【事前PR】 県内を対象に九頭竜川ダム統合管理事務所
公式X(旧ツイッター)、新聞、チラシ等で事前
PRを実施

■ダム見学会 広報チラシ



活動状況

【九頭竜ダム見学会】

- 今年、来場頂ける多くの方々により楽しんで頂くため、階段踏破チャレンジや水上巡視体験など従来から行っているイベントに加え、昨年と同様に地元協力(九頭竜楽しみ隊)によるおろし蕎麦・舞茸弁当、スイートコーンの販売を行いました。また、新規の内容として奥越漁業協同組合協力の岩魚の塩焼きの販売やミニ水族館、大野市や電源開発株式会社と共同でのスタンプラリーを行いました。

【開催日】 令和6年7月27日(土)

【主催】 「森と湖に親しむ旬間」行事運営連絡会

【会場】 九頭竜ダム(福井県大野市長野地先)
長野発電所(福井県大野市長野)

【参加数】 335名(大人272名、子供63名)

既存



新規



◆参加者のご意見◆

- ダム見学が好きで、普段は入れない場所が見れて良かった。
- 楽しかったです。毎年続けてほしい。
- イワナの塩焼きが美味しかった。
- 観光でたまたま寄ったのですが、大変参考になりダムの事が少しわかりました。
- 日常の電気の大切さを実感できた。

活動状況

【真名川ダム見学会】

- 今年は、来場頂ける多くの方々により楽しんで頂くため、木工工作教室やダム見学など従来から行っているイベントに加え、真名川ダムのゲートを近くから見る事ができるクレストゲート見学や大野市漁業協同組合協力のミニ水族館、北陸電力株式会社協力の真名川発電所見学、福井県や大野市、北陸電力と共同でのスタンプラリーを行いました。

【開催日】 令和6年7月28日(日)

【主催】 「森と湖に親しむ旬間」行事運営連絡会

【会場】 真名川ダム(福井県大野市下若子地先)
笹生川ダム(福井県大野市本戸)
真名川発電所(福井県大野市五條方)

【参加数】 284名(大人211名、子供73名)

◆参加者のご意見◆

- 堤体内は中々見ることがないので、貴重な体験になった。
- クレストゲート体験が凄かった。
- 噴水が綺麗だった。あとミニ水族館の亀がかわいかった。
- VR体験では普段行けないところだったので面白かった。
- キャットウォークを体験できるツアーがあったらいいなと思う。

既存

【ダム見学】



【抜水見学】



【笹生川ダム見学】



【福井森林管理署コーナー】



【福井県パネル展】



【VR体験】



新規

【クレストゲート見学】



【クイズラリー】
真名川ダム



【真名川発電所見学】



【ミニ水族館】



④「森と湖に親しむ旬間」協賛行事



第16回 もりみずカップ少年サッカー大会



- 「森と湖に親しむ旬間」の協賛行事として、九頭竜川流域の市町のチームを招いて、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子ども達の心身の健全な発育を図り、相互の親善を深めるとともに、個人技術の上達を図ることを目的としています。

大会当日は、選手たちは懸命にボールを奪い合いゴールを決めるなど大人顔負けのプレーを繰り広げ、日頃の練習の成果を存分に発揮していました。

【開催日】 令和6年6月1日(土)・2日(日) ※2日目は中止

【主催】 もりみずカップ実行委員会

【会場】 奥越ふれあい公園陸上競技場

【参加数】 16チーム 約300人

【協賛】 大野市、九頭竜川ダム統合管理事務所

【後援】 (株)福井新聞社、(一財)越前おおの農林楽舎、愛知電送(株)、(有)前田通信、丸栄電工(株)



◆評価・課題等◆

この少年サッカー大会は、平成20年に「森と湖に親しむ旬間」全国行事が大野市で開催された事を記念して始ったもので、今年度で第16回大会となります。参加チーム数は昨年と同様16チームの参加がありました。

参加チーム数は16チームで継続的に実施できており、今後も上下流域チームの参加により地域間の交流につなげていきます。



⑤ 九頭竜ダム自然体験



概要

■ 九頭竜ダムでは、地域の活性化を目的として、地元漁協に協力をいただき、普段入ることのできないダム堤体からの釣り体験をメインに、様々なイベントを行いました。

当日は、淀川流域の環境保全団体や親子連れの方など、県内外から多くの方に参加頂き釣り体験を実施しました。

また、今回は星空保護区にも選ばれた大野市の星空を、地域おこし協力隊の方に解説をしていただきながら見る星空観察や、電源開発の長野発電所見学も実施しました。



【開催日時】令和6年6月29日～30日

【実施場所】福井県大野市長野（九頭竜ダム）

【主催】九頭竜川ダム統合管理事務所 ■ 特定外来種のコクチバス

【共催】奥越漁業協同組合

【参加者数】121名

【駆除方法】釣り

■参加者の一般募集

Let's enjoy Kazuryu Dam!!

九頭竜ダム自然体験

6/29 (土) 6/30 (日)

■釣り体験

■星空観察

■長野発電所見学

■カヌー・SUP体験

申込期間：5/27(水)～5/31(日)



■釣りの様子



■星空観察



■発電所見学



⑥ 九頭竜ダム・真名川ダム見学ツアー



概要

- 九頭竜ダム・真名川ダムで「ロックフィルダムの九頭竜ダム、アーチ式ダムの真名川ダムの福井の2大ダムを見学」をテーマとした日帰りツアーが開催されました。

九頭竜川ダム統合管理事務所では、ダムなど経済や生活を支える社会基盤を観光資源化するための取り組みとして、ツアーを企画立案した旅行会社と協力し、九頭竜ダムと真名川ダムのツアー見学を実施しました。

今回は、ダム堤体内やキャットウォーク、全国でも珍しいダム下流に設置された噴水などを見学頂くことで、楽しみながらダムの役割についての理解を深めていただきました。

【開催日時】8月25日

【参加者数】22名

【会場】九頭竜ダム／真名川ダム

【主催】日本ユース旅行(株)

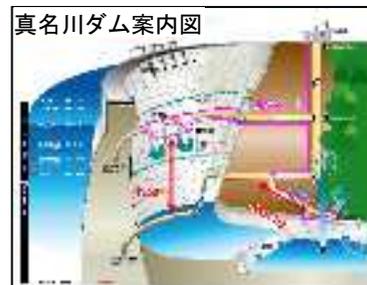
◆参加者の声◆

- 洪水調節の仕組みが理解できました。
- なかなかダムの中に入る機会が無いので貴重な体験でした。
- キャットウォークからの景色が絶景でした。
- ダムの中はひんやりしてて、寒いくらいでした。

■九頭竜ダム会場



■真名川ダム会場



⑦ ダム湖周辺の紅葉情報提供



概要



- 真名川ダム(麻那姫湖)、九頭竜ダム(九頭竜湖)周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、『紅葉情報』として毎週ホームページ及びX(旧ツイッター)に掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供するもので、昨年に引き続いて実施しました。

【期間】 令6年10月18日(金)～11月22日(金)

【URL】 九頭竜川ダム統管理事務所 <https://www.kkr.mlit.go.jp/kuzuryu/>
X(旧ツイッター) https://twitter.com/mlit_kuzuryuu



真名川ダム(麻那姫湖)周辺

九頭竜ダム(九頭竜湖)周辺

11月19日撮影



11月19日撮影



11月19日撮影



11月19日撮影



⑧ 自然ふれあい探検隊



概要

- 大野盆地を囲む山々を水源とした九頭竜川水系雲川で、自然とふれあいながら、河川の水環境を学ぶ「自然ふれあい探検隊」を大野市と共催で開催しました。

今年度は大野市の小学生に加え、友好交流都市である愛知県岩倉市の小学生が参加し、川に入り水生生物の捕獲や水質調査を行い川の水環境を学習しました。

水難事故防止動画の視聴とライフジャケットを着用しての安全な浮き方や溪流登りを体験するなど川遊びを堪能し、夏休みの思い出づくりの貴重な場となりました。

真名川ダム of 堤体内見学やダムの役割の学習により、ダムへの関心も高めてもらいました。

【開催日時】 令和6年8月1日(木)

【会場】 真名川ダム・麻那姫湖青少年旅行村

【主催】 九頭竜川ダム統合管理事務所、大野市

【参加者数】 大野市内小学生15名 岩倉市内小学生14名

■水生生物調査

水生生物採取



CODパックテスト



■水難事故防止の啓発

ライフジャケット



安全な川遊びの勉強



■真名川ダムの見学

維持放流設備



小水力発電設備



◆参加者の声◆

- 大野の川は冷たくてきれいな流れだった。
- 大野の水がきれいなことがわかりました。
- たくさんの生き物を捕まえることができました。
- きれいな水に住んでいる生き物しかいなかった。



⑨ 水生生物調査



概要

- 九頭竜川上流部及び支流の石徹白川で、生きものを指標として河川の水質を総合的に評価するため、地域の皆様のご協力をいただいて『水生生物調査』を実施しています。

和泉小学校の児童や電源開発株式会社の方々に参加頂き、水生生物調査を通して、参加者の皆さんにとって身近な水環境問題に対する関心を深めていただきました。

水難事故防止アニメの放映やライフジャケットの正しい付け方などの説明を実施することで、河川利用者の水難事故防止の啓発も行いました。

【開催日時】令和6年7月21日(日)・31日(水)

【調査地点】石徹白川(前坂キャンプ場)

九頭竜川上流部(旧役場前、多母谷川合流部)

【参加者数】石徹白川:7名(和泉小学校の児童)他8名

九頭竜川上流部:8名(電源開発株式会社他)

◆参加者の声◆

- 雑魚の餌になる生物がたくさんいることが分かった。
- 水生生物を直に見る良い機会だった。
- いつまでもきれいな川であってほしい。
- 綺麗な川に生息する虫が沢山取れて楽しかった。
- 川遊びではライフジャケットなどの重要性が良くわかった。

■水生生物の採取



■河川水難事故防止の啓発



■採取された水生生物



■水生生物の分別



■水生生物調査の結果



紅葉まつりでの九頭竜川ダム統合管理事務所の取り組み

■ 九頭竜ダム・真名川ダム建設の契機となる災害やダム建設当時の紹介、ダムの役割や必要性を再認識して頂くためのパネル展示や九頭竜ダムのVR体験を行いました。当日は、愛知県や滋賀県、岐阜県などの県外を含む多くの方々に参加いただきました。

また、流木の無料配布では、開始1時間前から県内外より訪れていた多くの方が好みの流木を選別され、準備していた流木の殆どが朝一に無くなるほどの大人気となりました。



■パネル内容の閲覧・説明



■VR体験



■流木の無料配布

◆評価・課題等◆

近年頻発している風水害への関心が益々高まっていると感じられ、展示パネルの説明を興味深く真剣に聞き入る方が見られます。ダムの役割や必要性を再認識して頂くとともに、防災・減災への意識の向上を図ることができ、継続して実施していく予定です。